

文学部創設10周年に寄せて

文学部長 原 山 煌

1989年、当時堺市西野にあった本学に文学部が創設されてから、はや10年がたちました。この10年間、わたしたち文学部は、本学学則冒頭に掲げられた建学の精神、すなわち「キリスト教精神に基づいて人格を陶冶し、豊かな教養を体得させ、深い専門学術を研究、教授することにより、世界の市民として広く国際的に活躍し得る人材を養成」するという理念に、もっとも直接的に対応する教育を推進するのは、後発ではあるが、わが文学部であるという気概のもと、教育・研究に従事してまいりました。文化というものに地域、言語という切り口から迫り、またさまざまな文化を比較するというやり方などで、自らの文化と異文化を相対的に考えることのできる学生を育成してきたところであります。

10年の時の経過とともに、キャンパスが移転し、創設当時から学部の屋台骨を支えて頂いた何人もの大家が定年で去られ、また時代の要請ともいうべきカリキュラム改革などによって、発足当初の文学部からすると変容した部分も少なからずありますが、前途有為な「世界の市民」を社会に送り出すという任務については、一貫して学部教育の基盤に置き続けて来ました。

この国際文化学会のメンバーは、「地域文化、比較文化、言語文化」を学部の教育理念とする文学部構成員を主体とすることから、会則にもうたわれておりますように、「地域文化・比較文化・文化交流などに関する研究」にかかわる専門家で構成されています。すなわち、この会則は文学部教育の主要な理念に沿っているわけでもあります。会員諸氏は、日頃研鑽を重ねた研究成果をこの学会誌『国際文化論集』で世に問い、またその最新の独自性あ

る研究成果を学部教育に還元してこられたところであります。その研究の範囲は、「国際文化」の名そのままに、世界の各地に及び、扱われる時代も多岐にわたっておりまして、過去の号をふりかえりますと、その内容の多彩さに目を奪われる思いがいたします。総じて関係学界を裨益するところ大なるものがあつたと確言できるであります。こうした成果を産み出す裏方をつとめてこられた歴代の編集委員各位の労にも、心から敬意を表したいと思います。この10年間に営々と築き上げられてきた研究成果を、質量ともに上まわる研究活動が、今後もこの学会誌から続々と発信されることを願ってやみません。

さて文末にあたつて、10年という歳月を閲した文学部の現状と将来展望についてすこし付言させていただきます。21世紀劈頭にあたり、私ども桃山学院大学は、新しい世紀に即応した教育・研究のいっそうの充実をめざして、目下教学・組織の根本的な改革を推進しております。その結果、従来共通教育担当学部であつた文学部は、その様相をがらりと変えることになります。時代の要請ともいうべき教養教育の充実という観点から、全専任教員が学科科目と共通科目を担当することとし、現在文学部に所属する共通教育担当教員が他学部に分散所属されることとなりました。本学は、このような新体制のもとで、全学挙げて学生の知的世界のレベルアップに邁進しようという強い決意で一致しております。

この改革にともなつて、本国際文化学会は、文学部構成員を主とする研究組織から全学に広がる新しい組織へと発展することになります。このような環境の変化から、国際文化学会にまた新鮮な刺激が加わり、本学会の力量がさらに充実することが予測されます。

本学会の活動、ならびに『国際文化論集』が、次の十年に向かってさらに飛躍されますよう心から祈念しております。